

# 伝統工芸・職人の技のいろいろ

～『阿島傘』風らんぷしえいどに込められた職人の技や伝統工芸のご紹介～

## ○傘ろくろ○

和傘の材料をつなぐ要となるろくろ。  
エゴノキでできている木工で  
骨の数だけ細かな切り込みが入っています。

現在、傘ろくろの製造を担う木工所は  
全国で岐阜に残る1軒のみ。  
和傘の一大産地である岐阜の和傘の伝統と共に  
日本全国の和傘の伝統を繋ぐ  
まさに和傘の要となる技術です。

## ○竹骨○

このランプシェードは南信州喬木村の真竹を  
使用しています。  
和傘の笠の部分となる骨の構造をそのままに  
作られています。

竹を割り、節や厚みを削って、つなぐための  
穴を開けるなど細やかな技法を駆使して  
竹骨が作られています。  
この竹骨により、和傘の放射状に広がる  
構造の美しさがもたらされています。



## ○飯田水引○

和紙を伝統的な製法で色鮮やかに加工されたもので  
芯の強い直線美と結ぶ技によって生まれる曲線の美が  
特徴の300年余りの歴史を数える飯田の伝統産業です。

このランプシェードは南信州に根付いた材料にこだわり  
頭紙の結紐として飯田水引を使用しています。

## ○ひさかた和紙○

飯田市下久堅で受け継がれる和紙。  
阿島傘の材料として古くから使われていました。

和紙の原料の楮（こうぞ）が南向きの斜面に生え、  
綺麗な水が豊富な和紙作りに最適な場所だったことから  
かつては和紙の一大産地でした。  
現在はひさかた和紙の会が技術の継承や  
和紙の活用に取り組んでいます。

## ○阿島傘○

南信州喬木村に江戸時代から伝わる阿島傘の手業。  
和傘づくりは「骨の数だけ工程がある」と言われるほど多くの工程があります。  
このランプシェードも「つなぎ」「張り」「仕上げ」など、  
多くの和傘づくりの技法を用いて完成します。